

(別紙)

成果の説明書

(氏名)	矢野修一	(学部)	経済学部
1 重要事項			
◇書評(単著)「アリス・アムスデン著『帝国と経済発展』—途上国世界の興亡」『高崎経済大学論集』第55巻第2号、2013年1月、183-189頁； 途上国開発の政治経済学的研究で国際的にも著名なアムスデン初の邦訳を書評。			
◇研究ノート(単著)「2つのアメリカ帝国と『埋め込まれた自由主義』の盛衰」『高崎経済大学論集』第55巻第3号、2013年2月、159-167頁； A. アムスデン、J. ラギー、E. ヘライナー、D. ロドリックらの議論に言及しつつ、戦後国際経済体制の変遷を素描した。			
◇翻訳(共訳)への取り組み； E. Helleiner, <i>States and the Reemergence of Global Finance: From Bretton Woods to the 1990s</i> , Ithaca and London: Cornell University Press, 1994. の翻訳作業を共同で進めた。2013年度中に完成し、法政大学出版局から出版の予定。			
◇高崎経済大学産業研究所編『高大連携と能力形成』(日本経済評論社、2013年3月25日刊)； 高大連携の意義と課題に関わる高崎経済大学産業研究所共同研究プロジェクト(2009年度～2012年度)のリーダーとして、上記成果報告書を編集。自ら、序章「問題意識と本書の構成」、第8章「高大コラボゼミの相乗効果—双方向的高大連携の試み」、終章「高大連携と能力形成の展望」の各章を執筆するとともに、出版社編集担当と協力して全体の取りまとめを行った。			
◇高経大学生と高経附生徒による「高大コラボゼミ」の企画および指導； 2010年度、2011年度に続き、日本企業のケーススタディを柱とする「高大コラボゼミ」を企画し各種指導を行った。経営支援NPOクラブの支援を仰ぎつつ、学生・高校生による日立化成、小松製作所、三井住友建設、三菱食品、三井造船、三井物産の各社訪問・インタビューをアレンジし、2012年9月15日の成果発表会につなげた。 成果発表会当日は、高経大・高経附の現役大学生・高校生のほか、コラボゼミを経験した両校卒業生、高・大教職員、保護者、一般市民、マスコミ関係者、高経附進学希望の中学生親子等、数百名が出席した。 高大コラボゼミの取り組みは、『読売新聞』(2012年9月21日および9月28日)、『上毛新聞』(2012年9月21日)、各種業界紙(『建設産業』2012年8月27日、『建設通信』2012年8月27日)、『グラフぐんま』(2012年8月号)、河合塾『Guideline』(2012年7・8月号)などで紹介された。			

◇『高経大+高経附 高大コラボゼミ 2012 年度成果報告書』（2013 年 2 月 1 日刊）の編集；

2012 年度の高大コラボゼミに取り組んだ大学生・高校生の感想を中心に、高経大学長、高経附校長、高・大それぞれの連携担当教員、成果発表会来場者のコメント、成果発表会資料などを成果報告書としてまとめた。関係各方面に配付されたほか、2013 年度のオープンキャンパス等でも配られる予定。

◇高崎経済大学矢野ゼミナール卒業論文集『経済学研究年報』第 20 号（2013 年 3 月 25 日刊）の監修および編集；

1994 年 3 月創刊以来、『経済学研究年報』の監修・編集を継続。2012 年度も総勢 13 名の卒業論文の執筆を指導し、300 頁を超える卒業論文集を完成させた。印刷・製本された卒業論文集は、本人の他、保護者やゼミの後輩らに配付された。

2 その他の事項

◇高崎経済大学附属高校「学校評議員」としての活動；

学校評議員として、高経附の運営に関する評議に加わり意見を述べた。